

キラリ☆ 中野のチカラ

なっちょ合同会社 の皆さん



地元民だからこそ 伝えられる情報発信を

今年の4月からインターネット上に「なっちょぽーたる」という信州中野の魅力を伝えるためのサイトが立ち上がりました。

今回は、このなっちょぽーたるを主軸に中野市の魅力を発信する「なっちょ合同会社」の皆さんにお話を聞きました。

○「なっちょ」とは

「なっちょ」とは、長野県北部の方言で、「どうですか?」「いかがですか?」という相手を思う意味で使われています。

なっちょ合同会社は、信州中野商工会議所青年部の有志10人が集まり、「信州中野の魅力をもっと広く伝えたい」「地域住民のコミュニティを創造したい」「もっともっと信州中野が好きになりたい」「信州中野はなっちょだい?」という思いを込めて設立しました。

○「なっちょぽーたる」

なっちょぽーたるでは、中野市内のイベント・店舗情報・市からのお知らせを知ることができます。これらの情報は、信州なかの観光協会や中野市体育協会などで構成する信州中野地域情報連絡会を通じて情報提

供されるものや、社員の地道な取材活動から得たものです。特に、店舗情報は、地域で親しまれているお店などで、インターネットにホームページが無いお店でも、昔から知っているからこそお知らせできる、地元民だからこそ伝えられる情報を提供しています。

また、なっちょぽーたるのサイト内には「情報提供フォーム」というページがあり、市内の非営利目的のイベント情報や団体などの情報をサイト閲覧者からメールで投稿していただくことができるほか、情報を知りたいという問い合わせにも対応しています。

なっちょぽーたるは、市民の皆さんが活用できる信州中野の情報発信の場所です。

○市民の皆さんへ

なっちょ合同会社は、なっちょぽーたるを発信源に市内の店舗情報やイベントの細かい情報をお伝えしていきます。現在、掲載店舗数は45件ですが、目標の掲載店舗数はまだまだ上を目指しており、市内店舗の方々の協力が必要です。

また、なっちょぽーたる以外の活動として、空き店舗の活用、市内店舗のホームページ作成なども行っています。地域を知っている強みを活かし、これらの活動を通じて信州中野を盛り上げていこうと思いますので応援をお願いいたします。

広報クイズ

■今月のプレゼント

「バラ苗木（なかの小町）」…2人

問題

藤澤勇さんのリオ五輪出場は、何五輪に続く、2大会連続出場になるでしょうか? 「●●●●●五輪」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 7月25日(月)必着

※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 新たに18歳・19歳に投票権が認められたことで、中野市では約何人が投票できるようになるでしょうか? 答え・・・「約950人」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課

秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・
電話番号・世帯主

市民リレー元気の輪

No.23

割田はま子さん
からのご紹介



○自己紹介

農家をやっており、モモやリンゴ、アスパラガス、サクランボ、米などを栽培しています。

もともとはサラリーマンをしており、兼業農家という形で親の代からやっている畑を継ぎました。

妻は嫁に来るまで農業の経験はなかったのですが、一から勉強しながら農業に取り組んでくれました。

私自身はサラリーマンだったので、転勤などでなかなか農業に専念できる時間がなく、妻に畑を任せていることが多かったと思います。そのため、サラリーマンを辞めて7年ぐらい前から農業に専念し始めるようになったのですが、妻に畑仕事のノウハウをいろいろと教えてもらっ



みやざわ しょういち 宮澤 昇一 さん (草間)

ています。

子どもたちは、みんな市外に出ており、畑の後継者がいないことに悩んでいます

が、妻と二人で畑を守っています。



▲サクランボ畑にて

○元気の秘訣

自分の体の調子をよく理解し、無理をしないよう気を付けることが一番だと思います。農家なので、仕事の調整もしやすく、自分に無理のないペースで働いています。毎日をしつかり、元気に、無理なく働いていることが元気の秘訣です。

○おらほの自慢

草間の日和山神社で行われる秋祭りの鬼獅子は市の指定無形民俗文化財になっていて、毎年、市外からもお客さんが来るくらい盛り上がりがあります。獅子舞いは、演目7舞とお囃子34曲で構成されており、見応えがあります。私も、伝統の鬼獅子を守り継承する保存会に属しており、太鼓を叩いて、舞に参加し、祭り獅子を継承しています。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 34



天皇后両陛下を

お迎えして

去る6月4日、天皇后両陛下を高野辰之記念館にお迎えした。当日は、記念館の広場に早朝から大勢の市民の皆さんが、歓迎のためお集まっていた。両陛下が我が中野市にお見えになることは、誠に栄誉の至りであり、私自身、中野市を代表してお迎えする栄に浴したことは、感極まるものがあった。

今回、両陛下は、6月5日に半世紀ぶりに長野県で開催された全国植樹祭にご臨席になるのに併せて、高野辰之記念館のご視察となった。植樹祭のフィナーレでは参加者全員で唱歌「故郷」の合唱となったが、その感動は言葉に尽くせないものがあった。今や「故郷」は世界的に歌われる曲となり、まさに詩の原風景が私たち中野市にあるというところが、非常な宝であることを、あらためて思った次第である。

高野辰之博士は音楽家ではなく、国文学者として東京帝国大学で博士号を授与され、日本の歌謡史を研究された。歌謡といっても歌謡曲から連想される歌謡ではなく、浄瑠璃や民謡の類であるが、そうした研究の一端を、博士が昭和天皇に御進講したのが折しも6月4日であったことに、私自身も縁を強く感じた。

私たちの郷土が育んだ偉人としては、高野辰之博士のみならず、日本のフォスターといわれる中山晋平生ほか、数多の方がおられ、音楽をはじめとして文化芸術振興に取り組んできた。私たちはこうした中野市に縁の深い偉人の恩恵に浴し、さらに文化芸術振興を図り、郷土愛を育む中で、地域づくりに動しむことが大切だと考える。

ちなみに、来年1月18日には、中野市、仙台市、竹田市が音楽を縁に、音楽姉妹都市提携を結んで50周年を迎える。都市間連携がこれからの時代は重要だといわれる中、もう一度、こうした中野市の持てる資産を見つめ直し、新たな時代に向け、郷土づくりに取り組むことが、私たちにあって大切なこととあらためて思った次第である。